



旅から旅絵

第七八回

藤原成暁

建築の原点

「山口県立山口図書館」

私のスケッチノートから二

「手は第二の脳、足は第二の心臓」と言われる。ものづくりは「手足づくり」、可能な限り本物の建築に接し、自分の足で歩いて指先からアウトプットする「スケッチノート（※）」づくりを始めて半世紀近くなる。すでに身の丈を超えたノートを改めて眺めてみると、現代のIT時代と当時とは隔世の感がある。人の噂やスマホの情報は参考にしつつ最後は、自分の足と手の記憶に頼るしかない。

学生の時に会った山口県立山口図書館は私の人生のターニングポイントとなった建築である。東京に戻り、同じ建築家（鬼頭梓）の設計による日野市立中央図書館、東京経済大学図書館、旧品川教会などを巡った。それぞれ規模も用途も違う建築でありながら、受ける印象はどれも同じものだった。奇をてらったような派手さはなく、その在り様から感じるものは「優しさと品格」だった。初めて建築を本気で学ぼうと思った。

ものの向こうに人が見える建築、人に寄り添った建築はどのようにしたら生まれるのか、この問いは今もなお私の中に存在し続けている。

※関連する拙文

『建築東京』九八年五月号「私の気まぐれスケッチノート」、『建築東京』二〇一四年月号「コルビュジエの終の住処カッパ・マルタンの休暇小屋を訪ねて」私のスケッチノートから」

ふじわら・なりあき

1953年東京都生まれ。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業後、奥野建築設計事務所を経て鬼頭梓に師事。1990年藤原成暁設計室設立。現在、同設計室主宰。ものづくり大学名誉教授

旅のスケッチ募集

「旅から旅絵」では、会員の皆さまの旅のスケッチを募集します。
問い合わせ・送付先／編集担当宛て

kaishi-2@kenchikushikai.or.jp

